

【寺戸地区】

「人・農地プラン」第1回地域懇談会概要

■ 開催日時等 令和3年12月2日 午後7時から 寺戸公民館

■ 参加者数 18人

■ 概要

- 1 「人・農地プラン」及びアンケート結果の説明
- 2 寺戸地区における実質化した現行「人・農地プラン」の説明
- 3 ワーキング・グループ（2班）による討議

◆地域の課題

担 手

- 農業従事者は高齢であり体力に限界を感じており、また後継者がいない。
- 米価が安く、農業に魅力や将来性がないため、後継者の育成が難しい。
- 地形的に担い手確保が難しい。

農地・水

- 農地の大きさに大小があり、作業道も狭く、機械が入りにくいため、作業効率が悪い。また、畦の草刈りが大変である。
- 水管理が難しく、水入れの当番の負担も大きい、特に雨の日や台風の際は大変であり、サラリーマンの兼業では困難であり、このままでは当番制を維持できない。

営 農

- 米価が安く、収支予測が立てづらく、収益があがらないため、経営不安を抱える。
- 米価は安く、農機具は高額で購入に係る補助金もないため、新たに購入することも難しく、償却もできない。
- 野菜を作っても、販売先が難しい。
- 農薬等の購入代や分水の水利費が高い。

◆現状と将来の農業者等

現 状

- イチゴ専作
- 自作し、個人で守っている。
- 知人に管理を依頼している。

将 来

- 米作することはない。
- 作り手はゼロになる。
- いちご農家が入っても耕作放棄地は増加していく。
- 助け合いや共同でできることで頑張る。
- 農業に就職できる様な条件作りが必要
- 余力のある人で集落営農をする。
- 会社をつくる。
- J Aが参入する。
- A I等の機械導入
- 担い手が入りやすくする、区画を拡大するなどの基盤整備が必要
- 用水管理の改善が必要
- 土地を売る。